

IV 資源量把握調査（アンケート・ヒアリング調査）の概要と結果

●調査の趣旨と目的

子どもの貧困対策に関する施策の推進を図るため、県内で子どもや家庭を支援している団体の活動状況等について把握することを目的として、アンケートによる実態調査を実施しました。

●アンケート調査

1 調査対象

- ア. 市町村社会福祉協議会 ……………44 団体
- イ. 生活協同組合 ……………3 団体
- ウ. 子ども食堂 ……………31 団体
- エ. NPO法人等 ……………17 団体
- オ. 学習支援団体 ……………5 団体
- カ. 学生ボランティア団体 ……………5 団体

合計 105 団体

2 調査内容

- ・郵送配布・回収
（巻末「資料」にアンケート全文を掲載）

3 配布と回収の状況

調査対象	配布数	回収数	回収率
市町村社会福祉協議会	44	29	65.9%
生活協同組合	3	3	100.0%
子ども食堂	31	20	64.5%
NPO法人等	17	8	47.1%
学習支援団体	5	5	100.0%
学生ボランティア団体	5	2	40.0%
合計	105	67	63.8%

4 数値等の基本的な取り扱いについて

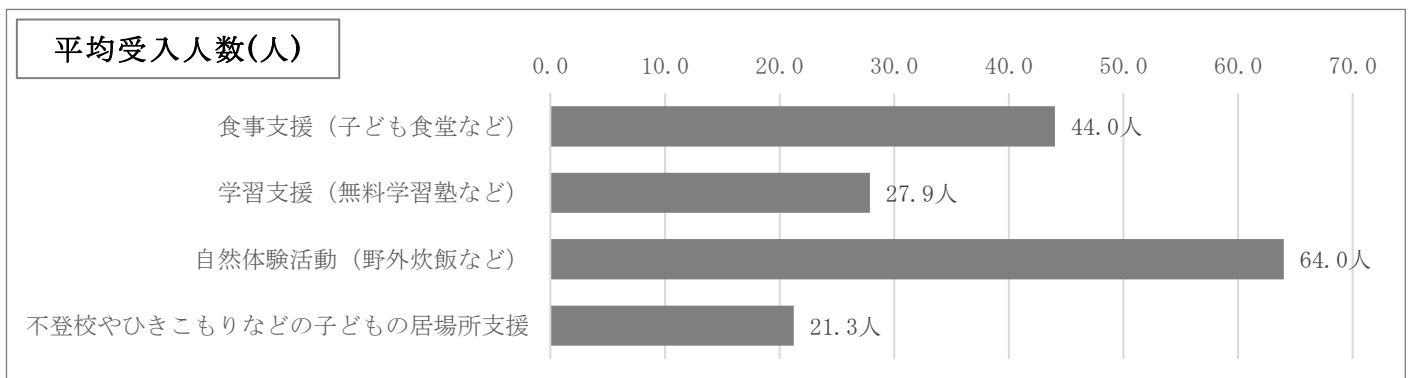
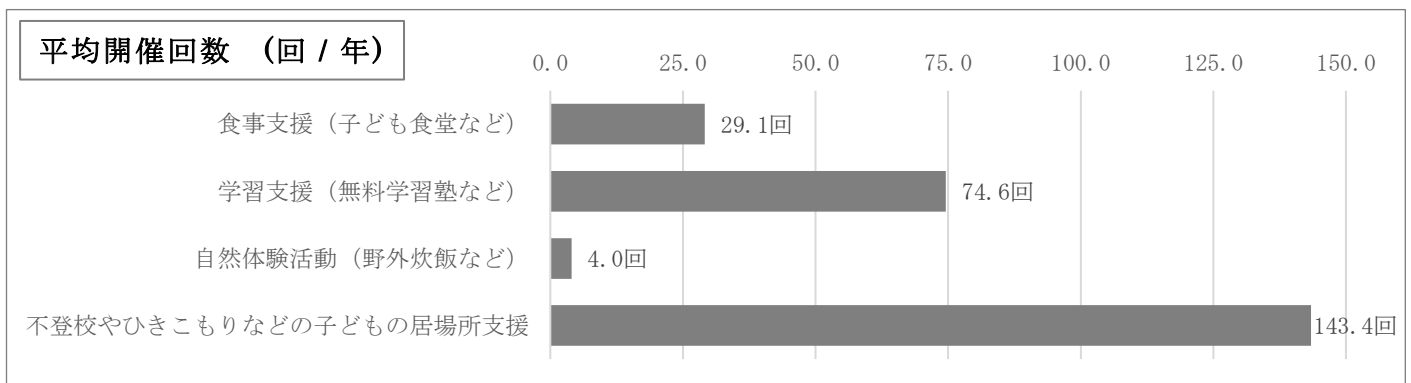
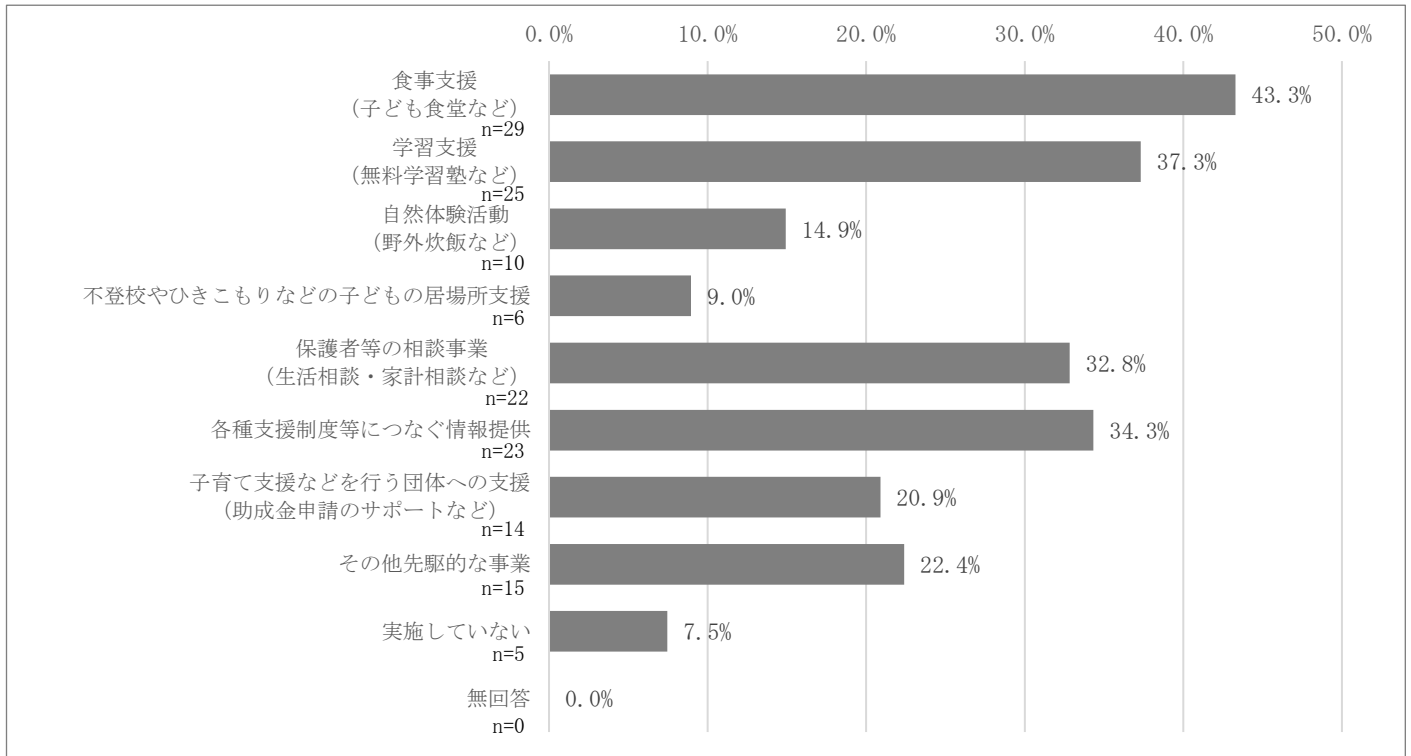
- (1) 比率は全て百分率 (%) で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しています。
したがって、合計が 100% を上下する場合があります。
- (2) 基数となるべき実数 (回答者総数または該当者数) は、“n=〇〇〇” として掲載し、各比率は n を 100% として算出しています。
- (3) 質問の終わりに【MA】とある設問は、2 つ以上の回答を出してもよい設問 (複数回答の設問) であるため、合計比率は 100% を超える場合があります。
- (4) 文章及びグラフの設問カテゴリー (選択肢) の文言は、一部簡略化してあります。
- (5) 文章及びグラフのクロス集計の数字・グラフの一部は、無回答者を除いてあります。
- (6) 回答者が 0% の回答は、基本的にグラフ化を行いません。また、「その他」の選択肢について、グラフ化していない設問があります。
- (7) 質問の選択肢は、基本的に「 」で表していますが、選択肢を 2 つ以上合わせて数値を示す場合は “ ” で表しています。

5 資源量把握調査(アンケート調査)の結果

問1 子どもや家庭を支援する活動について、現在、団体・組織で実施しているもの【MA】

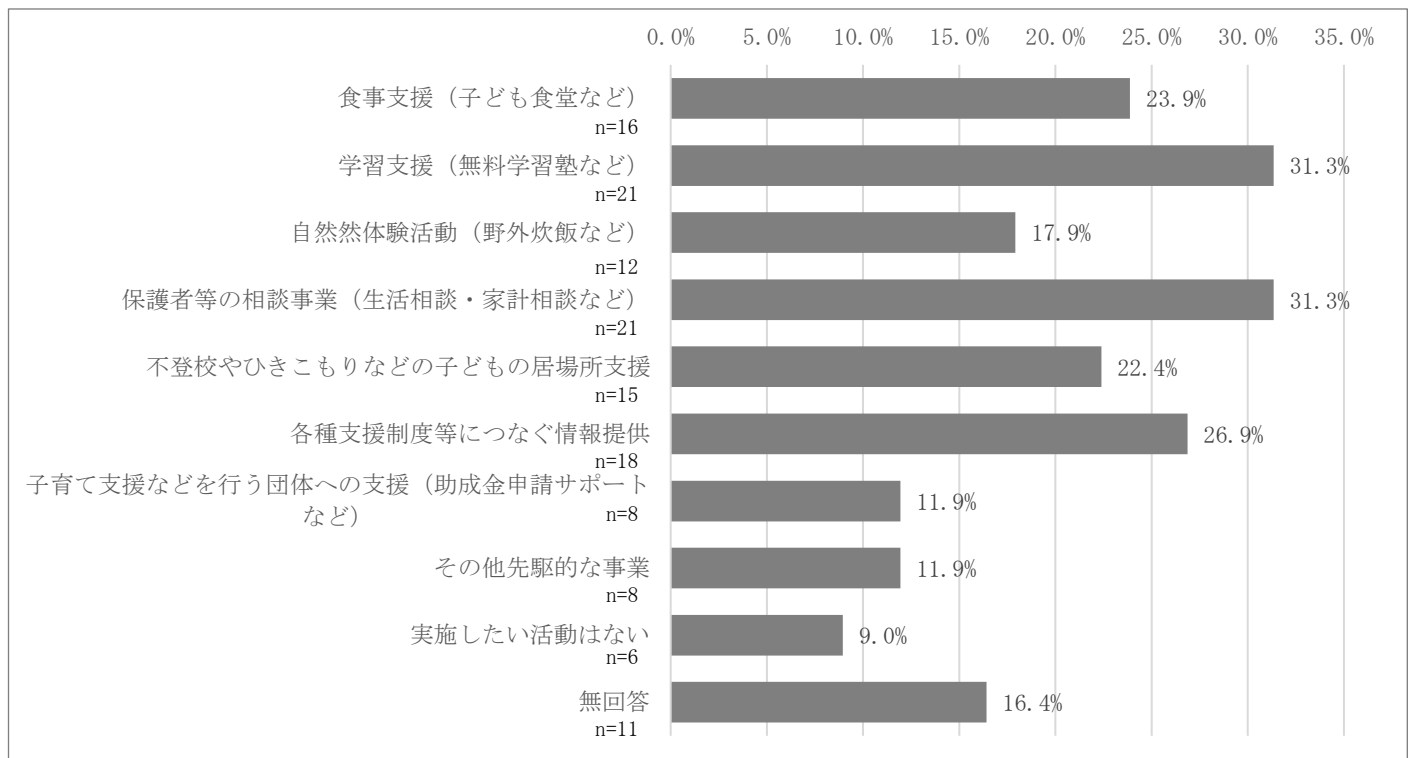
「食事支援（子ども食堂など）」が43.3%と最も高く、次いで、「学習支援（無料学習塾など）」（37.3%）、「各種支援制度等につなぐ情報提供」（34.3%）の順となっています。

平均開催回数でみると、「不登校やひきこもりなどの子どもの居場所支援」が最も高く143.4回となっており、平均受入人数でみると、「自然体験活動（野外炊飯など）」が最も高く64.0人となっています。



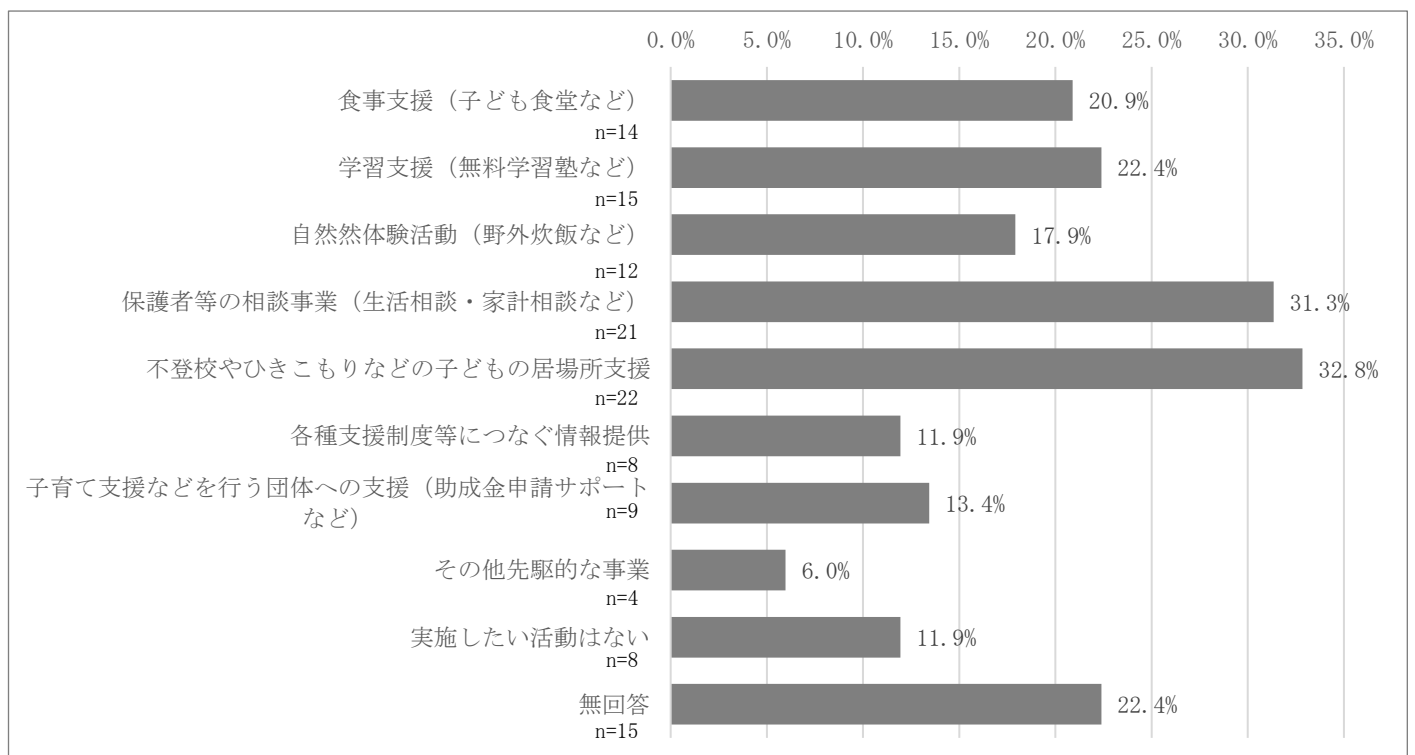
問2(1) 子どもや家庭を支援する活動について、今後実施したい活動【MA】

「学習支援（無料学習塾など）」と「保護者等の相談事業（生活相談・家計相談など）」が同率で31.3%と最も高く、次いで、「各種支援制度等につなぐ情報提供」（26.9%）、「食事支援（子ども食堂など）」（23.9%）の順となっています。



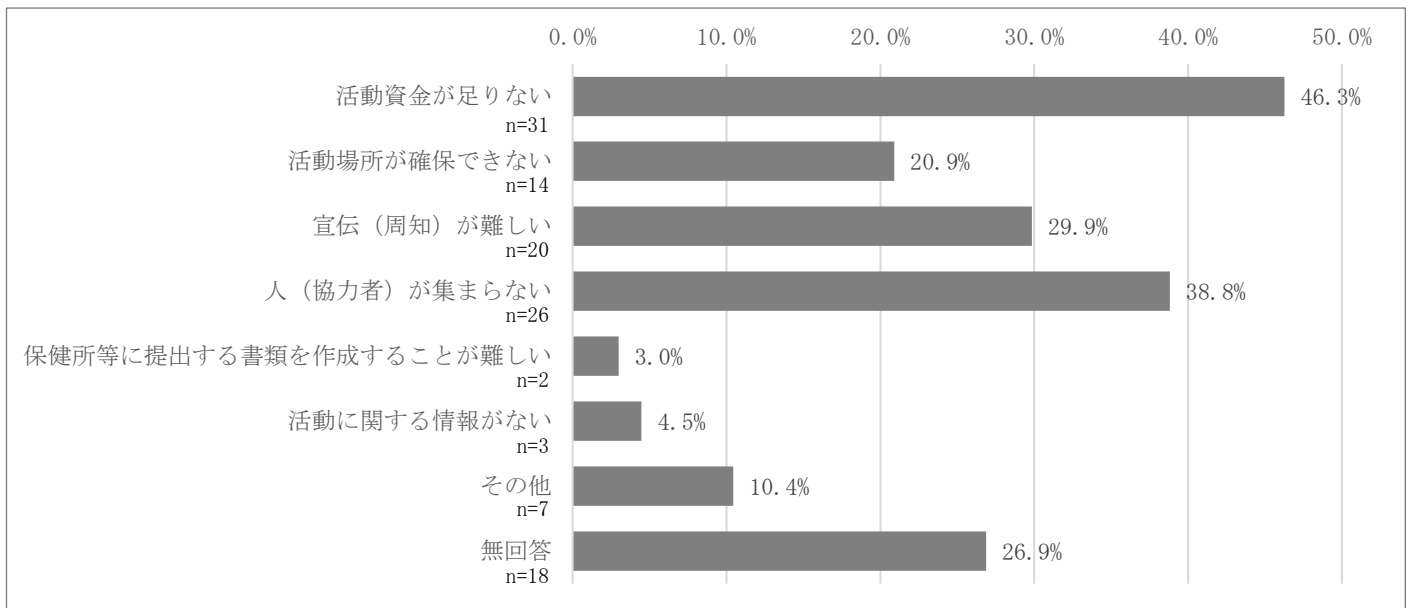
問2(2) 子どもや家庭を支援する活動について、今後実施することが可能な活動【MA】

「不登校やひきこもりなどの子どもの居場所支援」が32.8%と最も高く、次いで、「保護者等の相談事業（生活相談・家計相談など）」（31.3%）、「学習支援（無料学習塾など）」（22.4%）の順となっています。



問2(3) 活動を実施するにあたり困ること・活動を実施するために必要となる条件【MA】

「活動資金が足りない」が46.3%と最も高く、次いで、「人（協力者）が集まらない」（38.8%）、「宣伝（周知）が難しい」（29.9%）の順となっています。



問3(4) 活動に携わる方をどのように集めているか【MA】

「知り合いに紹介してもらおう」が56.7%と最も高く、次いで、「ボランティアを一般募集」（55.2%）、「大学等へ訪問し、学生を募る」（22.4%）、「NPO法人の会員」（20.9%）の順となっています。

